



山梨高等学校創立記念日にあたって

令和5年10月20日

本年10月23日、山梨県立山梨高等学校は107回目の創立記念日を迎えます。

平成29年、創立100周年の節目に記念式典が盛大に挙行され、山梨高校の誇る歴史と伝統が披露されました。「同窓生、在校生、職員が一体となって次の100年に向けての一步を踏み出すそう」との誓いも新たに、山梨高校は着実に歩き続けています。

学校創立

こうした本校が誕生したのは、第一次世界大戦真っ只中の1917(大正6)年のことでした。創立当時の名称は東山梨郡立実科高等女学校であり、同年4月28日に授業を開始し、5月1日に開校式を行っています。その後、1920(大正9)年に東山梨郡立山梨高等女学校、1922(大正11)年に山梨県立第二高等女学校、1925(大正13)年に山梨県立山梨高等女学校と名称を改め、激動の大正・昭和前期の時代を駆け抜けました。10月23日が創立記念日となった理由は、1925年のこの日に加納岩村新校舎(現在地)に移転して授業が開始されたことに由来しています。それ以前の校舎は、山梨市小原東にある現在の水の宮公園付近にあり、そこにはいまでも発祥地の石碑が建てられています。また、現在の山梨県立山梨高等学校という名称になったのは、第二次世界大戦後の1948(昭和23)年、学制改革をきっかけとした時のことでした。

校訓と校歌

ところで、本校の校訓である「至誠無息」は、すでに1936(昭和11)年の段階で制定されています。それを制定した第3代校長の小畑善吉先生は、次のように述べています。

本校校訓たる至誠無息は中庸^{ちゅうよう}に在り。之を採択して校訓と為したる所以^{ゆえん}のものは蓋し此^{これ}以上に語^{ことば}無く此の語以外に語無きが故である。至大至高至深の意義^{ぎぎ}を蔵す。此の語に配するに五綱領あり。(中略)

- 一、敬虔^{けいけん}を体し感恩^{きん}の至情^{しじょう}を現すべし。
- 一、礼儀^{れいぎ}を正し親愛^{しんあい}の情誼^{じょうぎ}を培^{つちか}うべし。
- 一、勤労^{きんろう}を愛し儉素^{けんそ}の良習^{りょうしゅう}を養うべし。
- 一、知識^{ちしき}を磨き技能^{ぎぎ}の習得^{しゅうとく}に励むべし。
- 一、摂生^{せつせい}を守り鍛錬^{たんれん}の工夫^{くふう}に力^{ちから}むべし。

(昭和11年刊『誠の道』)



難しい文章ですが、「敬虔(うやまいつつしむ気持ちの深いさま)」、「礼儀」「勤労」「知識」「摂生(飲食などを慎み、健康に注意すること)」など、時代を超えて大切なものと考えられる言葉をふまえて、「至誠無息」という校訓が、いかに高い意識をもって制定されたかがうかがえます。まさに誇るべき校訓だといえましょう。

なお、現在まで歌い継がれている校歌は、作詞は土岐善麿^{と き ぜんまろ}先生、作曲が信時潔^{のぶときよし}先生という著名な方々によって作られ、1951(昭和26)年に制定されました。

(裏面に続く)

輝かしい山梨高校

戦後、新制の山梨高校はしばらく男女共学で推移しました。しかし、1950年代後半からは入学者が女子ばかりとなり、再び女子校としての活躍が始まることになります。そこからの輝かしい歴史は、とりわけスポーツ面で顕著でした。今年73回を数える山梨県高等学校総合体育大会では、その第1回から第5回まで女子総合五連覇を達成しています。また、1975(昭和50)年からは実に女子総合九連覇の偉業を成し遂げました。これらを含め、同大会では総計29回もの女子総合優勝を果たしており、もちろんそのような高校は他にありません。まさに、女子教育の伝統校としての面目躍如たるものがみられたと言えましょう。

1968(昭和44)年には第1回梨窓祭が開催され、1976(昭和51)年には第1回強歩大会(太良峠～甲府～学校)が行われています。

こうした中、山梨高校を巣立っていった多くの卒業生が、様々な分野で地域を超えて大きく活躍するようになり、今日の本校の礎が着実に築かれていきました。

1978(昭和53)年からは中館・南館・北館の建設が順次進められ、現在の校舎が整えられました。さらに元号が平成と改まった1989(平成元)年、本校は再び大きな転機を迎えます。総合選抜制度の導入です。これにともなって33年ぶりに男子生徒が入学し、男女共学が復活、1997(平成9)年には英語総合コースが導入され、2004(平成16)年に約半世紀ぶりの体育館新築とプールの撤去が行われました。そして2007(平成19)年に全県一学区制が導入され、かつての女子高時代からの名残となるものはすべて姿を消すとともに現在の本校の姿が整えられました。

未来に向けて

私たちは、多様性の尊重、脱炭素社会の実現、ポスト・コロナの社会創造など、新しい持続可能な社会の在り方が問われる、歴史上の大きな転換点にいます。私たちにはこれまで以上に、変化に柔軟に対応し、主体的に動いていく力が求められる時代となっているように感じます。これまでの伝統を受け継ぎ、在校生の皆さんが自分自身の将来をしっかりと見据えて、山梨高校の生徒としての誇りと気概を持って生活することが、さらなる本校の飛躍に繋がると心から信じています。

※参考文献

山梨高等学校創立 50周年記念誌編集委員会編	『梨窓回顧五十年』 昭和43年
山梨高等学校創立 80周年記念誌編集委員会編	『梨窓の歩み』 平成9年
山梨高等学校創立 90周年記念誌編集委員会編	『梨窓の歩み』 平成19年
山梨高等学校創立100周年記念誌編集委員会編	『梨窓の歩み』 平成29年



山梨高等女学校学級会



創立100周年記念式典

